第１２０回　幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
151	太鼓橋掻宝珠の傷も夏の果	
152	水無月や松の影濃き石畳	
153	あぢさゐや奥へ奥へと石畳	
154	青葦に風立ちはじめ池動く	高槻市高垣町　四方　よね子
155	まだ青き台もちあげ蓮の池	
156	坂登りつめたる宮居大茅の輪	
157	青青と鵜殿の葦の大茅の輪	
158	木の椅子の尻の窪みや大団扇	
159	板張りの床の軋みや白芙蓉	大津市田辺町　山田　流水
160	秋惜しむ余生は俳を杖として	
161	肌かくし暑さしのぎて野良仕事	栗東市中沢二　葛城　巌
162	かに発見近づいたけどかくれちゃった	
163	そよ風の音につられてウグイスも歌んだ声で歌ってる	東京都世田谷区　豊田　紗雪
164	でで虫の角振り立てて雨の中	
165	雲の峰存分という高さかな	
166	土用波摘み離さぬサーファーかな	
167	唐崎の松を一閃夏燕	
168	うなぎ食べて阪神ひいき鼠歌す	大津市柳川一　丸岡　正男
169	シャガールのれもん色の空夏燕	
170	浴衣着て乙女に変わる教師かな	
171	短夜の満月かかる幻住庵	
172	蝸牛雨の明るき幻住庵	
173	遠くより夕立いて来る幻住庵	
174	山門や汗したたりし石の道	
175	歴史見るタイムスリップ夏の昼	茨木県日光市　神山　寛子

番号	句	住所・氏名
176	ふるさとの帰路によりて母おもう	東京都八王子市　のびら　みき
177	石山にひたすら汗をしたたらし	
178	千年の杉木立汗とめどなし	岡山市北区　三上　哲二
179	夏痩せも知らぬ人生米寿なり	
180	頂きし完熟メロン真っ二つ	
181	さざ波に遊ぶ夕暮れ夏休み	
182	水泳と言ふ程でなし海青ち	
183	ひい孫の抱っこ愚かる子供の日	大津市光が丘町一　大槻　幸恵
184	十薬に縁取られおり土塀かな	
185	川風や何処まで続く小判草	
186	故里や海は父母なり夏来たる	
187	さつと葉はがされ目覚む柏餅	
188	蒼矢の風をはらみて若楓	
189	沈丁花昨日と違ふ風の向き	大津市柳川一　園井　公子
190	窓拭きの背中に初夏の光かな	
191	ことのほか十薬白き雨の庭	
192	ボール蹴る少年ひとり梅雨きざす	
193	新緑光すがすがしき道二人連れ	
194	夜の来て部屋に居すわる西日熱	
195	どくだみに意地あり伸びてみぎひだり	大津市柳川一　丸岡　佐代子
196	長き日の売地立札草茂る	
197	季節今ひなたと日陰追いかけて	
198	晴おとこ小雨にぬれて梅雨の入り	
199	空蝉の風に吹かれし幻住庵	大津市里六　宮崎　正子
200	八景の夕焼のせて浪の綺羅	

第１２０回　幻住庵俳句コンクール